

第4回播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事概要

日 時	平成 28 年 3 月 23 日 (水) 14 : 00~16 : 00
場 所	播磨町役場第 1 庁舎 3 階 BC 会議室
出席者	<p>【播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議】</p> <p>松井 昭雄 (商工会) 大亀 亨 (商店主) 藤谷 淳一 (加古川公共職業安定所 次長) 南島 和久 (神戸学院大学 法学部准教授) 大塚 毅彦 (明石工業高等専門学校 建築学科教授) 榎山 春夫 (みなと銀行 本荘支店 支店長) 荒谷 ふみ子 (住民代表) 諸鹿 良治 (住民代表)</p> <p>【事務局】</p> <p>清水 ひろ子 (町長) 三村 隆史 (副町長) 角田 英明 (理事) 福田 宜克 (理事) 平郡 利一 (理事) 高倉 正剛 (理事) 岡本 浩一 (企画グループ統括) 堀江 直美 (企画グループ) 濱田 祐輔 (企画グループ)</p>
欠席者	<p>【播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議】</p> <p>田中 靖宏 (新島連絡協議会 会長) 真木 高司 (東播磨県民局 局長) 北 幸治 (労働者福祉協議会 会長) 門野 隆弘 (神戸新聞社 前東播支社長)</p> <p>【事務局】</p> <p>横田 一 (教育長) 森本 貴浩 (理事)</p>

1. 開会
2. 町長あいさつ
3. 協議事項

(1) 播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について

会長) まず、資料の確認をお願いします。

(事務局 資料確認)

会長) 資料3については、2つあるので、横長を資料3-1とし、縦長を資料3-2とする。それでは、次第に沿って進めていく。協議事項1 播磨町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況についてである。

(事務局 資料1及び資料2について説明及び映像上映)

会長) 立派な映像であった。何かコメントやご質問があればお願いしたい。町長からも一言お願いしたい。

事務局) 苦労話もあるが、この事業は町のお金を使わず、交付金等を使ってこれだけのものができたというのは、ありがたく思っている。今後は様々な会議で活用していきたい。皆様にもぜひ活用していただけたらと思う。

会長) 販売や貸し出しはするのか。

事務局) 販売はしないが、貸し出しは行う予定。学校にも配布済みである。ホームページにも、YouTubeを介して掲載する検討を行っている。

会長) ホームページに載るということで、広く見ていただけたらと思う。それではほかになさそうなので、次の協議事項に行きたいと思う。

(事務局 資料3について説明)

会長) KPI と取組進捗状況の報告であった。私の方から1点質問したい。触れられていない参考資料について、一言いただきたい。

事務局) 参考資料をご覧ください。記事はすべて、神戸新聞へ掲載をいただき、今回の資料についても配布の許可をいただいている。

(事務局 参考資料について説明)

会長) コメント等あればお願いしたい。

事務局) 今回作成したものは、播磨町の情報を提供するものが多いと思われると思う。情報は、伝わらなければならないものと一緒と考えている。播磨町のイメージを持っている人にとっては、かなり都市化した住宅地が広がっていると思われるが、実際には、自然や海があることを認識していただきたい。きっと住みたくなるという言葉は、知れば知るほど住みたくなるという意味である。そのために、映像やガイドブック、ポスターを使用して情報をどんどん発信したいと思い、交付金を使ってこういったものを作成した。町内の人でも、引っ越してきた人が多く、海があるということを知られてない人もおり、改めて海に面した町であるということをもっと表した。

委員) ジョセフ・ヒコについて、知らないことがあり、とてもいい映像ができており感動した。ただ作って、渡すだけでは映像は見られないと思う。その辺り、どのような戦略を持って見てもらうということは考えているのか。神戸新聞には掲載されているが、例えばサンテレビ等に放映してもらうなどは考えているのか。

事務局) ジョセフ・ヒコについては、時事通信社など様々な人が来るときに PR を行っている。郷土資料館で放映もしているが、様々なイベントでも流したいと思っている。また、土山駅南側の交流スペースにおいて、大型のテレビを設置するので、映像を常時流したいと思っている。土山駅は2市2町の接点でもあるので、きっかけになればなどと思っている。できれば銀行の方にもパンフレットを置いたり、映像を流していただくとありがたい成果品ができたばかりなので、色々試みたいと思っている。

委員) 楽しいコンテンツを見せていただけたと思う。歴史を通して、郷土愛を育むために作られたと思う。様々な産業の方にどのように活用していただくのか、どのように見せていくのかという戦略はこれから考えていくとは思いますが、行政が発信するだけでなく、どういう風に使うと町のブランディングに役立つかなど、様々な人から意見を集めることで、様々な方法が出てくると思う。播磨町から出る人が多いということであるが、言い換えれば全国に播磨町出身の人がたくさんいるということである。使い方や、方法は様々な人の意見を募集していただくと面白くなると思う。もう一つ、若者の郷土愛について、非常に高くびっくりしているが、学校教育についてはある程度の満足があるのかと思う。

事務局) ふるさと愛という意味で、播磨町の教育現場は大変落ち着いている。卒業式も非

常にすばらしいものであった。播磨町の学校教育はリピーターが多いと聞く。自分が親になった時に、播磨町に帰ってくる人が多い。以前から県にも国も要望をしているが、新島には 60 社以上の企業が操業しており、その企業が地元採用枠を増やしていただければ、播磨町で生まれ、播磨町で育ち、一時外へ出ることがあっても、播磨町に戻ってきて就職し、子育てをして一生過ごしたいと思っていただけたらと思う。子供たちが帰ってきたくないと思うような町にはしたくないと考えている。色々な形で地域も学校もサポートしていきながら、良い環境を作っていきたい。そうしたことから、子育て支援に力を入れている。映像の中に子育てをしてみても播磨町の良さがわかったという人もいる。平成 27 年の国勢調査では、約 500 人の人口増があり、県下で 2 番目の伸び率となっている。様々な施策をしっかりと行えば、まだまだ発展できる可能性のある町だと感じている。平成 29 年は町制 55 周年なので、大きなイベントも企画している。そのような機会もとらえながら、PR していきたい。

会長) 住民代表の委員の方にも、お話をいただきたいと思う。

委員) 階段をあがっているときにポスターを見た。非常にいいポスターだと思った。播磨南高校なんかは、学区も変わり、明石や加古川からも多くの生徒が来ている。学校に貼れば、刷り込んでいくような期待ももてる。若い子たちは一旦は外に出るかもしれないが、何年後かに家庭をもつような年齢になったときに、ポスターのことを思い出してもらえれば良いと思う。逆に 100 枚の枚数は少ないのではないかと思った。小学校や中学校の授業で見る機会を考えることも大切かと思った。

事務局) 高校にはもちろん貼りたいと思っている。お寺にも貼っていただけたら思う。庁舎内に貼るのに否定的な意見もあるが、殺風景なところにポスターを貼ることにより、より印象に残ると思う。

委員) 今日、3 人目の子どもが小学校の卒業式だった。以前お話しした、愛着があるか心配だった長男も、今日は卒業式についてきた。学校の先生方も町の方も言っていたが、いつでも戻ってこれば、味方がいますよという話をされていた。いつでも帰ってこれるということで、ふるさとはこういうものだなと実感した。

委員) ジョセフ・ヒコが、新聞の父と聞いていたが、ジョン万次郎の方が有名である。しかし、近代日本の民主化に影響を与えたのがジョセフ・ヒコであると思う。いろんな人にジョセフ・ヒコの話をさせていただいている。先日新幹線に乗った時に、見つけたのだが、冊子に大中遺跡が載っていた。播磨町のことを説明するとき、資料を集めると時間がかかってしまうが、これらの PR コンテンツはうまく作られたなと思

った。

委員) ビデオに関して、学校の授業で使っていただけたら子供たちの心に残ると思うので、是非活用していただきたいと思います。

委員) 階段をあがっているとき、私もみて、素晴らしいなと思って写真をとらせていただいた。SNS で発信しようと思っている。拡散できるコンテンツがもっと増えれば、もっと皆さんに認知してもらえと思った。

会長) 私からも一つ。自治会等にお披露目会のようなことはするのか。

事務局) やりたいと考えている。5月の自治会長会で流したいと思う。地域のいきいきサロンでも、毎回色々なことされているが、これを見ていただければ、話題作りにもなるかと思う。ポスターに関しては、学校や、土山駅など常時目に付くところに置きたい。増刷も可能であり、使っていただけるのであれば、是非貼っていただきたいと考えている。

会長) 次に進みたいと思います。その他のところで何かあればお願いしたい。

委員) 今後のスケジュールについてはどうなるのか。

事務局) 今後については、年に1回程度、成果のご報告ということでお集まりいただくことになると思う。また、任期についても、平成29年3月までとなっているので、よろしくをお願いしたい。また、その他ということで、町長のあいさつにもありました加速化交付金の事業について、ご説明する。

(事務局 加速化交付金事業について説明)

事務局) 先ほど大塚委員がおっしゃっていた意見募集なんかも、クラウドソーシングでできるのではないかと思う。

委員) 西宮市では、民間の人が自主的に集まって起業家交流や勉強会をし、従来のつながりだけでなく、新たなつながりや出会いを駅前で行っている。土山駅前でもそういう場所ができると、若い人が自由にふらっと立ち寄って、意見を交換したり、仕事したりというような仕組みづくりを色々なところで仕掛ける時代なのかと思う。

委員) 大中遺跡へ付加価値をつけるというのはすばらしい着眼点と思う。フラワーセンターに博物館ができ、そこともつながるようにやってほしいと思う。

事務局) 考古博物館の運営委員として、参加もしており、親密な関係にあるとは思っている。考古博物館が10周年、播磨町が55周年と大きな節目を迎える。ARなどは、博物館の学芸員の指導をいただくなかで、小さな範囲でなく、一体でレベルの高いものが作ればと思う。考古博物館とは開館したときから、親密な関係があり、連携もとれている状況と思う。

委員) 海外向けのPRもやっていけたらいいのかなと思う。

事務局) 産業PR映像については、英語、中国語の字幕は入っています。

事務局) 外国の方も観光地だけでなく、違うところにも足を伸ばされている。播磨町の売りを考えると、大中遺跡もあるが、新島の企業もユニークでハイレベルな工場が多い。先ほどツアーの話も出ていたが、外国人対象のツアーもあり得るかと思う。

4. 閉会